

2018年11月6日
株式会社日本医療機器技研
代表取締役
山下 修蔵

マグネシウム合金を基材とする冠動脈ステント（生体吸収性マグネシウム合金スキャフォールド）開発の医療研究開発革新基盤創成事業（**CiCLE**）への採択について

株式会社日本医療機器技研（本社：熊本県上益城郡、以下「当社」）は、本年10月22日に、「至適分解性により術後遠隔期に血管再生を促す生体吸収性マグネシウム合金スキャフォールドの非臨床・臨床POC取得」について、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（以下「AMED」）の医療研究開発革新基盤創成事業（以下「**CiCLE**」）^{*1}に採択されたことをお知らせ致します。

冠動脈の狭窄や閉塞によって引き起こされる虚血性心疾患は、心筋への血液の供給を妨げる重篤な疾患であり、日本人の死因の第二位に挙げられています。この疾患の治療として、近年では、冠動脈ステント^{*2}を用いた低侵襲性の治療法が広く普及しています。生体吸収性マグネシウム合金スキャフォールドは、治癒過程を経て体内で吸収分解されるため、術後の有害事象を回避するのに効果的であり、抗血小板薬服用期間の短縮、再治療における選択肢の拡大に寄与すると期待されます。

今後は、**CiCLE**の支援の下、産学官ならびに医工連携体制を一層強化し、生体吸収性マグネシウム合金スキャフォールドの早期実用化を推進して参ります。

※1 医療研究開発革新基盤創成事業（**CiCLE**）について

2017年度からAMEDが実施する同事業は、産学官連携により、我が国の力を結集し、医療現場ニーズに的確に対応する医薬品・医療機器・医療技術などの実用化の加速化、医療研究開発分野でのオープンイノベーション・ベンチャー育成が強力に促進される環境の創出を推進するものです。

※2 冠動脈ステントについて

狭窄・閉塞した冠動脈に対して管腔内部から拡張・支持する網目状金属からなる医療機器